

Road
to
ZERO**2010 NPT再検討会議
生協代表団 現地報告 from NY**5月3日(月)
発行
しずおか・やまなし
神奈川の生協代表団**国連で原爆パネル展がスタート**

NPT再検討会議期間中にニューヨーク国連で開催される「原爆パネル展」が今日からスタートしました。会場となった国連ビジターセンターは朝からのあいにくの雨にも関わらず、地元ニューヨーク市民に加え、ヨーロッパやアジアなど世界各国の人々や各メディア関係者も訪れ、大きな関心を集めました。



国連本部のロビーで行われたテープカットのセレモニーでは、まず赤坂国連事務次長の挨拶から始まり、秋葉広島市長の挨拶に続きしました。秋葉市長は「過去を記憶にとどめない者は、こういった原爆展で、多くの人に過去を見つめ直してほしい」と話されました。

次に挨拶に立った田上長崎市長からは、「できるだけ創造力をもって写真1枚1枚を見てほしい。そして、多くのみなさんが核兵器を無くすんだという強い意志を持って小さな行動を起こされることを心から願う」と話されました。続いて、坪井被団協代表委員から、「この原爆展から世界の響きが次第に大きくなり、核兵器と平和に力を与えてくれることと思います。日本被団協は命のかぎり頑張り通す、いついかなる時であっても核兵器廃絶をあきらめることはありません」と力強い挨拶がありました。最後に、坪井さんから「Never Give Up」と強いお言葉をいただき、テープが切られました。

原爆展の会場では、被爆者の証言活動が行われ、「原爆についてまだまだ本当のことの半分も知られていない」と被爆者の熱い思いを伝えました。参加者は被爆者の生々しい体験談に言葉を失う場面もあり、核兵器の恐ろしさを親子で話しあっていました。

日本原水協シンポジウムに参加しました

5月3日の夕方、リバーサイド教会で公開シンポジウムが行われました。会場には千人以上が集まりました。まず、代表からの挨拶の後に5人のパネリストから報告がありました。会場からは、「日本の草の根活動に大変感心している」、また昨日の行進について触れ、原水協の方達の集めた署名の箱に感動した」等の発言がありました。



<イサベラホームで証言活動>

午前中の国連パネル展の活動を終え、市内中心部からタクシーで30分ほどの養老院イサベラホームで証言活動を行いました。証言を行う3名とちょうど同じ年代の男女30名ほどが施設のホールに集まり被爆体験に熱心に耳を傾けました。

「ここにいるのは核爆弾を落したアメリカに抗議に来たものではありません。これをきっかけに皆さんと一緒に核兵器を無くしたいのです」という被爆者の報告に対して、参加者から「戦争や核兵器は絶対だめだ!」という声がありました。



<コネチカット州の公立小学校で証言活動>

コネチカット州にある公立小学校 Cos Cob School には約420人が在籍、その内約60人が日本人だそうです。

映画の1シーンに出てきそうなグランドセントラル駅から1時間ほどの鉄道でコスコブ駅に着きました。校長先生のお話、「つるの祈り」の上映後、仲伏さんと山田さんの被爆証言、質疑応答がありました。「どのようにしたらアメリカの人が原爆をなくすために努力できるか」という質問に対する「難しい質問だが、オバマ氏の演説のようにアメリカが先頭をきって行動してほしい」との塩瀬さんの思いに128人の参加者から拍手も起こりました。最後に生徒たちから108羽の折鶴が被爆者の方々に手渡されました。

今回の活動では地元ボランティアの方々温かい緑茶、柏餅、おにぎりを準備してくださったりして被爆者のみなさんを迎えてくれました。また、証言を聞くためにコスビス小学校以外の子供やその保護者の参加もありました。「108羽の鶴」が核兵器のない平和な社会を私たちと一緒に広げていってくれると確信しています。



<被爆者インタビュー>

仲伏幸子さん(東京都被爆者団体協議会)

日米双方の子どもたちが学ぶ学び舎で、子どもたちのほかにご両親や地域の方々など多くの方にメッセージを伝えることができ嬉しかったです。9.11同時テロの事件の報道を受け、広島市の中学生が平和を願い作詞した「our wish」の歌声が講堂に響き渡った時は、一般市民は国籍の壁を超え、平和な社会を願っていることを確信しました。

中村雄子さん(神奈川県被爆者団体協議会)

核兵器はたった一発ですべてをなくしてしまいます。その影響力はその後ずっと続いて、多くの人を苦しめてきました。「忘れられないあの日」の本には、当時の様子が生々しく描かれています。被爆者の体験談とともに多くの人に渡して、同じ過ちが繰り返さないようにしたいです。

田村良夫さん(神奈川県被爆者団体協議会)

今日は、多くの外国の方々鶴を折りました。実は私も自分で鶴を折ったのは、初めてだったのですが難しいですね。折り紙をしながら交流できたことは、意義深く、鶴の折り方とともに、平和を願う気持ちが世界各国に広がっていくといいと思います。